

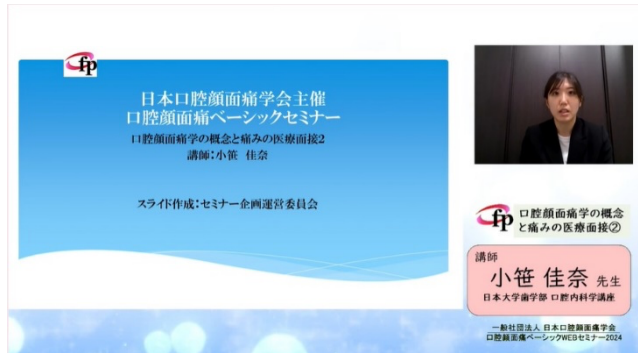
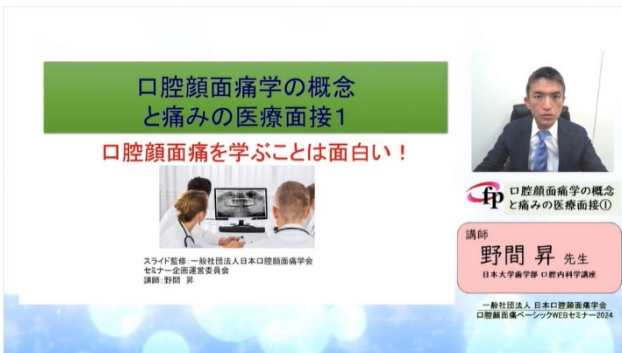
今回は、7月1日～31日に行われた口腔顔面痛ベーシック WEB セミナー2024 について山崎歯科クリニックの石井 彩先生に報告していただきます。

## 口腔顔面痛ベーシック WEB セミナー2024 参加報告

山崎歯科クリニック 石井 彩

今年度の口腔顔面痛ベーシックセミナーも2020年からの流れを引き継ぎWEB開催となった。本セミナーは、学会会員の先生方のみならず非会員の先生方の受講も可能なセミナーであり、1本15分の講義動画を順番に見ていくことで口腔顔面痛の基礎から臨床までその概要を学ぶことのできる構成になっている。セミナー冒頭の坂本 英治先生（九州大学病院顎顔面口腔外科集学的痛みセンター）のご挨拶にもあったように、WEBセミナーは居住地や職場でも見ることができること、また期間中は何度でも繰り返して見られることが魅力であり、地方在住で子育てをしている身としては、途中で止めて何度でも再生して見ることができとてもありがたく感じた。

### 1. 口腔顔面痛学の概念と痛みの医療面接（野間 昇先生・小笹 佳奈先生）



まず野間 昇先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）から口腔顔面痛の概略についてお話しいただいた。日本の総人口の5%（600万人）が慢性口腔顔面痛・頭痛を有しており、非歯原性歯痛の患者の多くは歯科医院を受診すれば痛みがなくなると考えている。そして開業医の中には抜髄・抜歯をすれば歯の痛みは止まると考えている人もいる。しかし非歯原性歯痛は関連痛として生じるものが最も多く、疼痛部位と疼痛源が一致しないことが多い。筋・筋膜性疼痛、三叉神経・自律神経性頭痛（とくに群発頭痛）、三叉神経痛、巨細胞性動脈炎の症例を提示していただき、歯の痛みを主訴に来院した患者であってもその原因は様々であり、正確に鑑別診断するためには病気を知る必要があることが強調された。

次に小笹 佳奈先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）から口腔顔面痛患者の診断と治療の流れと口腔顔面痛の診断において欠かせない医療面接についてお話しいただいた。口腔顔面痛患者の診断では的確な病歴聴取が欠かせない。患者が感じている痛みについて丁寧に聞いていくことの大切さが認識された。また痛みの原因が頭蓋内疾患である場合、診断の遅れが患者の予後に大きく影響するため、鑑別診断を行う上で脳神経検査が重要である。医療面接において、痛みの特徴の聴取や12脳神経の簡易スクリーニング検査により脳神経症状を把握し鑑別を行うことで正しい診断と治療につながるということが理解できた。

## 2. 必須の痛みのメカニズムと薬理作用 (篠田 雅路先生)

必須の痛みのメカニズムと薬理作用

篠田 雅路  
日本大学歯学部生理学講座

必須の痛みのメカニズムと薬理作用①

講師  
篠田 雅路 先生  
日本大学歯学部生理学講座

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会  
口腔顔面痛ペーシクWEBセミナー2024

篠田 雅路先生（日本大学歯学部生理学講座）からは、痛みの定義やメカニズムと NSAIDs をはじめとする臨床で用いる薬剤の作用機序についてご解説いただいた。

日頃臨床を行う上ではあまり意識しない分野であるが、普段使う薬剤がどのように作用するのかを改めて確認することができ、とても有意義であった。

## 3. 痛みのメカニズムに基づいた薬物療法の実際 (桑島 梓先生)

日本口腔顔面痛学会主催  
口腔顔面痛ペーシクWEBセミナー  
痛みのメカニズムに基づいた  
薬物療法の実際

桑島 梓

痛みのメカニズムに基づいた薬物療法の実際①

講師  
桑島 梓 先生  
日本大学松戸歯学部  
有床義歯補綴学講座

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会  
口腔顔面痛ペーシクWEBセミナー2024

桑島 梓先生（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座）からは口腔顔面痛治療において使用する薬物についてご解説いただいた。症例ごとに診査結果、診断、治療と流れを追ってご説明いただいたので分かりやすく、また先生が実際に診査される際のポイント等も交えてお話いただいたのでより実践的で臨床に即した内容を学ぶことができた。

## 4. 咀嚼筋由来の歯痛とは (原 節宏先生)

口腔顔面痛ペーシクセミナー2024

咀嚼筋由来の歯痛とは

原 節宏

咀嚼筋由来の歯痛とは①

講師  
原 節宏 先生  
日本歯科大学附属病院総合診療科・  
顎関節症治療センター/口腔顔面痛センター

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会  
口腔顔面痛ペーシクWEBセミナー2024

原 節宏先生（日本歯科大学附属病院総合診療科・顎関節症治療センター/口腔顔面痛センター）からは筋・筋膜性疼痛についてご解説いただいた。原因不明の歯痛のうち78.8%が筋膜痛を併発しており、そのうち50~80%が関連痛として歯痛を生じていたことから筋・筋膜性疼痛の診断と治療についての理解は必須である。また筋・筋膜性疼痛においてなぜ筋膜が痛みの発生源になるのか、そして関連痛のメカニズムについて、現在考えられている学説について

でもご紹介いただきとても興味深く感じた。

## 5. 歯科で生じる神経障害性疼痛 (岡田 明子先生)

Basic Seminar

歯科で生じる神経障害性疼痛  
—No.1—

スライド作成者；セミナー企画運営委員会  
講師；日本大学歯学部口腔内科学講座  
岡田明子

歯科で生じる神経障害性疼痛①

講師  
岡田 明子 先生  
日本大学歯学部 口腔内科学講座

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会  
口腔顔面痛ペーシクWEBセミナー2024

岡田 明子先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）からは神経障害性疼痛について、代表的な疾患である三叉神経痛、三叉神経領域の神経障害性疼痛、帯状疱疹後神経痛の症例を示しながらご解説いただいた。神経障害性疼痛の診断では発作性か持続性か、急性か慢性か、交感神経依存性か非依存性か、また神経の障害度はどのくらいかを念頭に対応する必要があることが示された。症例ごとにそれぞれの痛みの特徴や診査の仕方、治療についてお話しいただいたこと

ととても分かりやすく理解が深まった。

## 6. 口腔顔面痛における認知行動療法（渡邊 友希先生・土井 充先生）



まず渡邊 友希先生（昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座顎関節症治療部門）から心身症の定義、医療面接における基本的態度、認知行動療法の総論的内容をお話しいただいた。痛み患者は身体的な痛みによる苦痛と心の痛みによる苦悩の両方を抱えており、心理的介入を行う以前に患者との関係性構築が重要となる。受容、傾聴、共感の3つの基本的態度を考慮した上で、患者の「感情」に注目した医療面接を行うことで双方向性のコミュニケーションを取ることの大切さを理解した。

そして土井 充先生（広島大学大学院医系科学研究科歯科麻酔学研究室）からは慢性痛の患者に特徴的な認知行動的モデルとそのアプローチ方法についてお話しいただいた。慢性痛の認知行動療法では、患者自身の認知行動面によって悪循環を起し難治性になっていること、行動変容のために認知行動的なアプローチが必要であることを理解してもらったうえで、患者と治療者がチームとして協同し治療を行っていく。土井先生が講義の最後に述べられていたように行動や身体に対するアプローチは今までの治療と併用しやすいので、早速患者に伝えていきたいと思った。

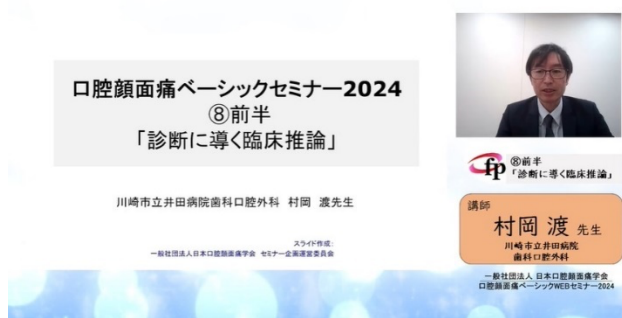
## 7. 歯科で役立つ頭痛の知識（白田 頌先生）



かった。

白田 頌先生（慶応義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室）からは緊張型頭痛と顎関節症に起因する頭痛、片頭痛、三叉神経・自律神経性頭痛（とくに群発頭痛）についてご解説いただいた。緊張型頭痛と顎関節症に起因する頭痛はオーバーラップしており、筋触診とTMDの診断をすることが求められる。また重篤な疾患の可能性のある頭痛が原因で歯に痛みが波及することもあり、頭痛の患者が来たときは専門医に紹介できる環境を作っておく必要があることが分

## 8. 診断に導く臨床推論（村岡 渡先生）



村岡 渡先生（川崎市立井田病院歯科口腔外科）からは臨床推論の仮説演繹法についてご解説いただいた。臨床推論とは疼痛構造化問診により得られた情報から鑑別診断のヒントとなるキーワードを挙げ、想起される鑑別疾患を列挙しその中から最終診断を絞り込んでいく方法である。非歯原性歯痛の見逃しや誤診を減らすためにも、臨床推論の考え方を知り、そのトレーニングを行っておくことは有用だと感じた。

\* 追記：

本セミナーは、学会会員のみならず、**今年度から非会員の先生方も受講可能**となったので、口腔顔面痛学会会員に限らず、口腔顔面痛の基礎から臨床まで勉強をしたい先生には是非受講をおすすめしたい。

---

## 【石井 彩先生のプロフィール】

### 【略歴】

- 2015年 長崎大学歯学部卒業  
宮崎大学医学部歯科口腔外科入局
- 2016年 宮崎大学大学院入学（病理学講座腫瘍・再生病態学分野）  
山崎歯科クリニック非常勤歯科医師として入職
- 2021年 山崎歯科クリニック常勤歯科医師として入職
- 2022年 博士号（医学）取得



### 【資格】

- 日本口腔顔面痛学会認定医  
日本口腔外科学会認定医

### 【自己紹介】

昨年第一子となる娘を出産し現在育児奮闘中。育休期間を経て仕事復帰したが、世の働く父・母の偉大さを身に染みて感じている。山崎歯科クリニックの山崎 英子先生のご紹介で口腔顔面痛分野に興味を持ち、本学会に入会した。なかなかまとまった時間が取れないが、これから少しずつセミナーや研修会への参加を出産前のように増やしていきたいと画策中。

---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: [jsop-service@onebridge.co.jp](mailto:jsop-service@onebridge.co.jp)